

入院診療計画書

年 月 日

病棟:()

治療方針: 大腸切除術 Ver.3.1

特別な栄養管理の必要性: 有・無

推定される入院期間: 8～14日間

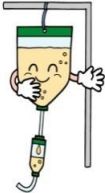
様

主治医:

担当看護師:

患者様サイン欄:

ご家族サイン欄:

	入院日～手術前日	手術当日(手術前)	手術当日(手術後)	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	手術後4日目	手術後5日目	手術後6日目～退院日
達成目標	・手術の必要性を理解し、不安なく手術を受けられる。		・疼痛コントロールが実施できる。	・離床を行うことができる。 ・術後合併症の兆候がみられない。				→ →	・退院後の留意点について理解できる。 ・食後の腹部症状がなく排便コントロールがとれる。
安静度・リハビリ・退院	・病棟内を自由に歩くことができます。	→	・症状に合わせて体を動かしていきます。	・初回歩行時は、看護師が付き添います。その後は自由に歩けます。 ・回復にむけてなるべく体を動かしていきます。	・院内を自由に歩くことができます。			→	・症状を確認し、問題がなければ退院ができます。
食事	・昼食までソフト食が摂れます。 ・水分(水、茶)は摂れます。	午前手術なら朝6時まで 午後手術なら朝10時まで水分は摂れます。	・手術後、医師の許可が出てから水を口に含むことができます。 むせなければ、水を飲むことができます。	・食事はできませんが、水・お茶は摂れます。	・昼食から流動食が摂れます。	→	・昼からソフト食が摂れます。	・昼から軟菜食が摂れます。	・手術後6日目に栄養指導があります。 ・手術後7日目より常食が摂れます。
注射・薬剤	・処方された下剤を内服します。	・医師から指示された薬のみ、少量の水で内服することができます。	・点滴があります。 ・痛み止めと胃薬を飲みます。			→			
検査				・胸部と腹部のレントゲンがあります。 ・採血があります。			・胸部と腹部のレントゲンがあります。 ・採血があります。	・採血があります。	
処置	・看護師がお臍のそうじをします。	・手術室に行く前に、全ての衣類を脱ぎ、T字帯、弾性ストッキング、術着を着用します。	・マスクを着け、酸素吸入を行います。 ・手術室で痛みどめの管を背中に入れます。 ・心電図モニターをつけます。	・歩行後、弾性ストッキングを外します。 ・心電図モニターを外します。			・背中への痛みどめの管を抜きます。		
清潔	・シャワーをしていただきます。 ・手術に備え、歯磨きをしてください。	・朝の歯磨きを必ずしてください。		・看護師が蒸しタオルで体を拭きます。	・シャワーができます。				→
排泄	・歩いてトイレに行くことができます。	→	・手術室で尿を出すための管を入れます。	・歩くことができれば、尿の管を抜きます。 ・尿の管を抜いた後は、歩いてトイレに行くことができます。	・歩いてトイレに行くことができます。				→
患者様及びご家族への説明	・麻酔科医師による手術前の診察があります。 ・看護師が入院後の生活、入院・手術に必要な物品の説明をします。		・医師から手術結果についての説明があります。						・医師が退院について説明します。 ・薬剤師が退院後の薬の内容と管理について説明します。 ・看護師が退院後について説明します。

注1) 病名及び治療内容等は、入院時に考えられるものですので、検査・治療を進めていくにしたがい変更することがあります。
注2) 入院期間、表記の日時については入院時での予定です。